

**陸奥湾
漁場環境調査情報**

平成 18 年 9 月 29 日
水産総合研究センター
増養殖研究所
電話 017(755)2155

底質調査(7月5日、9月4,5日実施)の結果が判明しましたので、その結果の概要をお知らせします。

底質調査結果

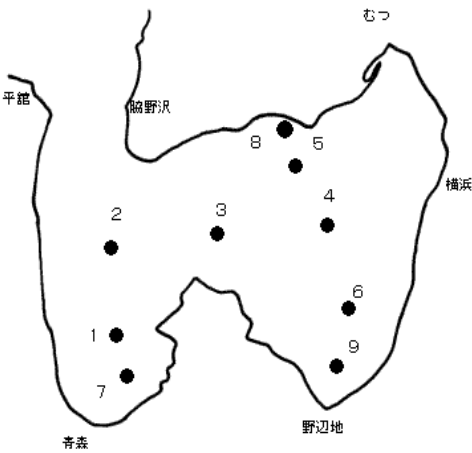
9月調査時の底層の酸素量は、3.6~7.4mg/Lの範囲でしたが、St.3で3.6mg/L、St.4で4.4mg/Lと湾の中央部では貧酸素、低酸素状態となっていました。

底質の結果は、ILは1.9~9.9%、TSは0.02~0.21 mg/g、CODは2.4~42.0mg/g、含泥率は3.1~70.8%の範囲で、CODについてはSt.1~6とSt.9では基準値を超える値となり、特にSt.3,4ではこれまでの最高値であった平成12年の9月の値を超えて、調査開始からの最高値となりました。湾の中央部では、水が停滞しており、このため酸素量が低下し、またCOD値も高い値となったもの考えられます。

しかし、このほか、図に示したとおり、概ね平成8年からの調査結果の変動範囲内であり、湾全体での有機的な汚染の進行は認められませんでした。

また、沿岸寄りの調査地点であるSt.7,8,9では変動の大きいTSを除き、低い値で推移しています。

調査項目



- IL : 強熱減量(海底泥を高温で加熱した際に燃える有機物の量)
- TS : 全硫化物量(海底泥中の硫化物量)
- COD : 化学的酸素要求量(海底泥中の有機物量)
- 含泥率 : 63μm以下の泥粒子の重量百分率(細かい泥には有機物が多い)。

これらの4項目は全て底質の有機汚染の指標で、数値が高いほど汚染が蓄積しているといえます。

項目	「水産用水基準2000」による基準値
TS	0.2mg/g 乾泥以下
COD	アルカリ性法で20mg/g 乾泥以下

底質調査地点

